

Akatake Times

9月になってもいまだに残暑の厳しい毎日ですね。
夏バテなどになっていませんか？
47期も良いスタートをきれるよう、体調管理には十分注意して
頑張りましょう！



『第二の故郷、山梨』

大学生時代に過ごした山梨に遊びに行ってきました。
北杜市にある『ハイジの村』というところで、過去に放送されていた「アルプスの少女ハイジ」を元に
作られたそうです。
今年のお盆は天気が悪く、山梨に向かう道中もずっと雨で心配でしたが、ひまわり畑に到着すると
雨がやみ、太陽が顔を出してくれました。
青空とひまわりの組み合わせがとても綺麗でした。
いいタイミングで雨が止んでくれてよかったです。



撮影日時：2017年 8月11日

撮影と文：品質保証部 渡邊さん

努力の習慣化

年々、暑さが増しているように思える夏もそろそろ終えようとしている今、第47期を迎えました。第46期は、相応の成果を出すことができ、先ずもって感謝いたします。そしてお疲れさまでした。今期も各部門方針に沿って弱点を克服しつつ、強みを高めていきましょう。

◆5S活動＝仕事

“勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし”を肝に銘じ、“悲観的に準備をし、楽観的に対処する”を旨として、日々の活動に取り組んでいかななくてはなりません。

我社のミッション“顧客の創造をとおり、永続的に発展し、社会に貢献する”ためのキーワードとしては、暗黙知⇒形式知化、データベース化、情報共有化です。

そして、それらを推進する大きな力の一つとして、5S活動があります。

ちょうど先日、片浜産業クラブのメンバーとその社員の方々34名様が5S見学に来社されました。

お迎えするための準備も大変でしたが、一応の成果を残せたのではないかと思います。

私は、歓迎の挨拶の中で『5Sを成功させることができなかつたら会社は潰れていたのではないかと、時々思っています』と申し上げました。

さほどに重要な5S活動を振り返ってみます。



2006年9月2日に開催された第36期年度方針発表会において5S進発式を挙げてから、丸11年を迎えます。

始めた当時の活動は、自分自身の抵抗勢力（心）もあって大変困難を伴いましたが、苦しくても少しずつ改善効果が見えてきたときの喜びが思い出されます。

5Sは仕事として捉え、利益を生むための活動であることも折々に確認してまいりました。

現在、後戻りしないための手段の一つに、パトロールとその報告会を毎週月曜日の全体朝礼の中で行うなどして努力しています。

この報告会がマンネリ化しないように、価値が下がらないように、更なる改善も必要と思われれます。

他に、後戻り防止対策として“5S見学の受け入れ”があります。

私共の5S活動を見ていただき、これから5S活動に取り組もうとされている、あるいは、活動を展開中だがなかなか成果が上がらないから参考にしたい、という各種団体の見学を受け入れています。

今まで来社された延べ人数は、500名を超えています。

見学後は、我が社が改善すべき項目をお一人につき1点以上ご指摘いただいています。

貴重なご意見で刺激をいただき感謝です。

『“やらされている”から“やりたい”、自分たちで考え自分たちで協力して解決する組織、現場の改善点を見つける眼を養う』など事業の基本を含んだ5S活動は、利益を生み出す仕事であることを再確認し、取り組む意識とやり方を変化させ、成果を出していきたいものです。

◆重イイ言葉

かつて社内報で書き留めておきました“いい言葉”を抜粋して改めて紹介します。素晴らしい業績を挙げたトップセールスマンの言葉です。実に重みがあります。



- 真のリーダーとは、苦境に陥ったとき真価を発揮しなければならない。順調な時は真のリーダーは要らない。
- 出来ないことだけを言うな。
- できないことを環境のせいにするな。自分責任論で“考動”せよ。
- Timing is Money! チャンスは貯金できない。
- 二番煎じで製品を右から左へ動かすだけでは仕事ではない。人の心を動かすような執念がなければ何も始まらない。お客様の信頼を獲得していくことが顧客創造の基本だ。
- 全てに差別化せよ。
- 万事徹底せよ。名札ひとつにとっても傾けて付けるな。100-1=0である。
- 生産:100、販売:105、サービス:110、開発力:120。メーカーは開発力で生死が決まる。
- 健康であること。
- あらゆる手段を使って情報収集せよ。
- ノープレイ・ノーエラーでは生き残れない。
- 売上は元気、利益は自信となる。
- 上司は部下の能力を把握するのに3年かかるが、部下は上司を3日で判断する。

人は、公私ともやらなければならないことが多くあります。

努力して、努力して、その努力を習慣化していくことが肝要なのでしょうね。

ご安全に！

代表取締役社長 赤堀 肇紀